

第3回シグマ専門委員会議事録

38. 5. 8(10:00~17:00)

於 丸の内工業クラブ

出席者(委員) 百田, 大野, 立花, 野沢, 安, 国富, 寺沢, 塚田,
大田, 園田, 杉江, 飯島, 吉田, 森田, 浅見の15
氏。

(討論参加者) 五十嵐, 入谷, 松延の3氏。

(関係者) 仲本, 西田, 古屋, 堀井の4氏。

欠席者 小川, 中島, 桂木, 高橋, 野本の5委員

1. 前回議事録確認

2. 経過報告

(1) 委託研究の申請について(百田主査より報告)

昭和38年度の研究計画の作成ならびに必要な経費の算出を行なうため、高速、共鳴および熱の各中性子エネルギー領域について、それぞれ担当幹事を中心になつてワーキング・グループを組織し検討を行なつた。その結果を3月23日の幹事会で取りまとめ、3月30日申請書を原子力局へ提出した。4月6日には原子力局に対して説明会を催し、目下局による査定をうけつつある。当初は4月中に委託費の内定がある予定であつたが若干おくれる見込みである。したがつて、今回の委員会では委託費決定に伴う研究実施の討議を行なうには至らなかつた。

(2) アンケートの結果について(百田主査より報告)

5月27日~31日にウインで開かれるINDSWGの会合に提出すべき日本側資料の素材とするため百田主査によりアンケートが行われたが

その返事が数件寄せられたので、これらおよび日本の概況を百田主査が取りまとめ持参する。

(3) 原研委員会との関係(百田主査より説明)

本委員会の委員は全員が原研のシグマ研究委員会委員でもある。従つて学会事務局および原研庶務課の両方から委員会の開催通知が行なわれ無駄が生じたが、この点については今後改善する。なお今回の委員会は原研の第1回委員会である。

3. 議 事

(1) 事務および旅費上のルールについて

大野幹事より説明資料により提案があり検討の結果つぎのように決つた。

イ 各サブグループでの研究活動の実情が委員全員によく分るようになるため、各グループの会合通知、記録、資料などの配布はサブグループ内部のみにとどめないで委員全員に送ること。また、事務局用のものを必ずとつておくこと。

ロ 旅費については、委託費で使える金額が未定であるため、当分原研委員会旅費によることとし、サブグループの会合に出席するものうちで旅費の必要なものの氏名を会合日の少なくとも1週間以上前に主査まで申し出ること。委員以外の者でも必要な場合には支払い。ただし、委託費が決つたときには再び検討して決める。

ハ 今後議事録あるいは記録には配布資料についても記載する。

(2) 各グループの研究計画作成経過及び内容の説明

高速中性子領域に関しては杉江委員、共鳴中性子領域に関しては立花幹事、熱中性子領域に関しては飯島委員によりそれぞれ研究計画作成

過程および研究内容の概略説明がなされ原案が了承されたが、計算実施に関しては委託費による計算依頼費の額によつて決める必要があるので委託費決定の後再度細かく検討することになった。(計画ならびに内容に関しては各サブ・グループ記録参照のこと)

また、すでに外国で行なわれた計算について全く同じ計算を本委員会でも行なうのかどうかということが論議され、その結果、再計算を行なう目的と意味とが明確である場合には行なうこともありうるとの結論に達した。

(3) シグマ・センターについての討論

大野幹事より当面必要と考えられるシグマ・センターの機能についての概略説明が行なわれ質議討論の結果、つぎのような意見が出た。

イ 委員会独自で本格的な情報収集、通知などを行なうためにはそのための組織と専門のスタッフが必要であること。

ロ 高速、共鳴、熱の各グループの研究実施に当つては当然ながら各領域でのデータの収集活動が平行して行なわれるので、まずこれらのデータの整理保存を行ない、かつ計算結果についてもデータとして積上げていくこと。

一ハ 特に共鳴領域での研究活動は当分データの収集が中心になるので、この点からも有用な結果が期待出来ること。

ニ 外国との情報交換の窓口としては百田主査のINDSWへの参加が公的なアナウンスにはなるが、窓口の所在地、英文名称など幹事会で考えておくこと。

ホ センター設立のタイムスケジュールを考えること。

(4) 中島委員不在中の取扱いについて

中島委員アメリカ出張中は高速グループメンバーである東工大山室氏に本委員会への代理出席を願う。また、委員会の資料、議事録などはすべて中島委員にも送付する。

(註 中島委員への宛先 ; R. NAKASIMA; Nuclear Data Project,
National Academy of Science, 2101 Constitution Avenue,
Washington 25, D.C., USA)

(5) 委員会の役割について

本委員会と各サブグループとの関係などについて討議の結果、本委員会の役割としてつぎの事柄が確認された。

1. シグマ・センターの計画立案
2. 各グループ間の調整, 情報交換, 総括
3. 対外関係の窓口
4. 研究計画の決定

(6) サブ・グループメンバーの確認について

サブ・グループでの研究参加者について確認がなされた。(別添)

4. 次回委員会

昭和38年6月20日 (東海研) 午後1時より

議 題

1. 38年度研究実施について
2. INDSWGの報告

5. 配 布 資 料

説明資料 シグマ委員会旅費のルール, 事務上のルール

討議資料 シグマセンターの機能について

参考資料: ○第8回炉物理談話会におけるシグマ委員への要望(3838)

○「原子核物理における多元パラメータ解析装置の利用に関する会議」に出席して

(1963, 4.1, 更田, JAERI-Memq, No.1153)

○SIGMACENTER, NEWSLETTER No.7; Oct-'62, BNL768(N-7)

○Compilation of Requests for Nuclear Cross section Measurements: Sep-'62, WASH-1040